

(21) 昭和41年頃 彫刻科実技日程表

京都市立芸術大学芸術資料館

UNIVERSITY ART MUSEUM, KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS

かたちの作法:

Practices of Form:

実験場としての彫刻科

The Sculpture Department as an Experimental Ground

(1953-1979)

(1953-1979)

2026

6.6_土 - 8.2_日

10:00 - 17:00 ※入館無料

休館日: 月曜日(7月20日は開館、7月21日は休館)

主催: 京都市立芸術大学芸術資料館

協力: 京都市立芸術大学彫刻研究室、芸術資源研究センター

Date: Saturday, June 6 - Sunday, August 2, 2026

Closed: Mondays (except July 20)

Hours: 10:00-17:00 ※Admission Free

Organizer: University Art Museum, Kyoto City University of Arts

Cooperation: Department of Sculpture and Art Research Center, Kyoto City University of Arts

野崎一良(作品26) 鉄 1965年

堀内正和
《咬み合う立方体》
ステンレス
1974年



本学の前身である京都市立美術大学の彫刻科では、1953年より伝統的な彫刻教育を離れ、論理的に形を学ぶ独自の造形基礎カリキュラムが構築されました。教員の辻晋堂(1910-1981)・堀内正和(1911-2001)が推進したこの教程は、国際的な抽象美術の動向と響き合いながら、思考を鍛える「かたちの作法」として約30年にわたって展開し、多彩な美術家を育てる原動力となってきました。

本展では、このカリキュラムを軸に、近年の新収蔵品を交えながら彫刻科の教員および卒業・修了生の作品を紹介します。

あわせて研究室や教員の旧蔵資料を手がかりに、教員と学生による造形の実験場としての彫刻科のあゆみをたどることから、戦後における造形教育の一断面をひらきます。



辻晋堂
《捨得》
テラコッタ
1960年



6月祭 1963年6月8日 今熊野校舍彫刻棟にて



北原昭一
《門》木 1969年

“6月祭”のころ

1951年6月、彫刻科は東山区今熊野日吉町へ単独移転し、この分教舎が教育改革の拠点となりました。

毎年の「6月祭(移転記念祭)」や『彫刻科年報』(1960-70年、全11巻)の刊行を通じ、研究室は教員と学生によるゆるやかな“共同体”として形づくられ、やがて1970年の大学改革運動のなかで転機を迎えます。



【京都美術大学彫刻科年報】
(第1-11巻、1960-70年、京都市立芸術大学彫刻研究室刊行)
および年報資料



八木一夫
《壁体》陶土 1963年

関連イベント **参加無料・申込不要**

2026年度芸術資料館

「連続講座 学芸員と語る京都市立芸術大学」

第1回 中原浩大(本学彫刻科教授)×菊川亜騎(本展担当学芸員)

日時:7月16日(木) 14:00-15:30

会場:芸術資料館展示室

ギャラリートーク

日時:6月23日(火) 12:15-12:45

※最新情報は当館または大学ウェブサイトのイベント情報をご確認ください。

大学の行事等により、予定が変更になる場合もあります。

※入館の際に介助等が必要な方はスタッフまで申し出ください。



京都市立芸術大学芸術資料館

〒600-8601 京都市下京区下之町57-1

お問い合わせ:075-585-2008

芸術資料館ウェブサイト:<https://libmuse.kcua.ac.jp/muse/>

京都市立芸術大学ウェブサイト:<https://www.kcua.ac.jp/>

@kcua_museum

- ・地下鉄丸の内線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車 徒歩6分(JR京都駅中央口からA棟まで)
- ・京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分(1番出口からC棟まで)
- ・市バス 4,7,16,81,205,南5号系統「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ

佐野賢
《成長する岩》石 2000年

